

このガイドは、共用試験 OSCE を受験する医学生の皆さんのために、試験対策を含む学習方法に関するアドバイスと、実際に試験を受ける際の一般的な注意事項をまとめたものです。各大学で OSCE 受験者向けに行われる説明会とあわせて参考にしてください。

1. 「学習・評価項目」を学習の参考に

共用試験 OSCE は「参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる技能・態度に関する学習項目・評価項目」(以下、「学習・評価項目」と略す)を基礎にして作られています。OSCE の課題の評価マニュアル(学生には非公開)と「学習・評価項目」の項目別の内容は、ほとんど同じになっています。つまり、「学習・評価項目」を学習することが効果的な試験対策になります。

2. 共通課題は非公開

昨年の共用試験では OSCE の課題が事前に公開されましたが、「学習・評価項目」を中心にした学習を更に促すために、今回の OSCE の課題は公開していません。

3. 受験する際の注意

(1) 所見の述べ方

各課題の問題文に指示があれば、診察所見を評価者に向けて述べましょう。指示がなければ所見を述べる必要はありません。指示があるにもかかわらず所見を述べなかった場合には、評価者から所見を質問される場合があります。

(2) 患者さんへの声かけ

挨拶や診察中の声かけなど、患者さんへの配慮としてのコミュニケーションについては、評価されます。一方、昨年の課題に含まれていた「患者への身体所見の説明」は削除しました。これは、一般的に臨床実習初期の学生は「診察所見を適切に解釈できる」レベルではなく、患者さんに所見を説明する機会がないので、時期的に学習の意義を実感するのが難しいと判断したからです。臨床実習で自分の五感と説明技術をしっかり磨きましょう。

(3) 左利きの学生が行う手技

「学習・評価項目」あるいは OSCE の課題の問題文に特に指示がなければ、左右を逆にした手技でも、右利きと同じ手技でも、どちらを行ってもかまいません。

(4) 時間切れの場合の挨拶

課題で指示された内容を時間内に全て終えることができなかった場合でも、患者さんにお礼を述べて終了しましょう。

平成 16 年 8 月 31 日

共用試験実施機構医学系 OSCE 試験事後評価小委員会